

コロンビア

Republic of Colombia

	2009年	2010年	2011年
①人口:4,551万人(2011年)			
②面積:114万1,748k㎡			
③1人当たりGDP:7,132米ドル (2011年)			
④実質GDP成長率(%)	1.7	4.0	5.9
⑤消費者物価上昇率(%)	2.0	3.2	3.7
⑥失業率(%)	12.6	11.9	10.9
⑦貿易収支(100万米ドル)	2,545	2,240	5,514
⑧経常収支(100万米ドル)	△4,960	△8,760	△9,980
⑨外貨準備高(100万米ドル、 期末値)	24,748	27,766	30,486
⑩対外債務残高(グロス)(100 万米ドル、期末値)	53,719	64,738	75,859
⑪為替レート(1米ドルにつき、 ペソ、期中平均)	2,158	1,899	1,848

〔出所〕①:アグスティン・コダシ地理研究所(IGAC), ②④:国家統計局(DANE), ③⑨⑩:IMF, ⑤⑥⑦⑧⑪:コロンビア中央銀行

2011年のコロンビア経済は、活発な個人消費に支えられ実質GDP成長率は前年を上回る5.9%となった。貿易は、輸出入ともに過去最高を記録し、貿易収支(国際収支ベース)は2000年以来最高の約55億ドルの黒字となった。対コロンビア投資は、鉱業・サービス分野が目立った。対外直接投資では、エネルギー分野において周辺国への拡大を進めている。

■ 耐久消費財など内需が好調

コロンビアの2011年の実質GDP成長率は5.9%となり、リーマン・ショックの影響を受けた09年を底にV字回復を遂げた。需要面からみると、民間最終消費支出は、自動車など耐久消費財の需要が伸びたことを背景に6.5%増となった。耐久消費財では特に2011年の新車販売が30万台を突破し(32万4,570台、前年比27.8%増)、このままで推移すれば2012年の販売台数は40万台水準になるとする強気の見方もある。また、総固定資本形成は16.6%増で、うち輸送機械が45.2%増、一般機械が25.8%増など、大幅に伸びた。産業別でみると、鉱業部門(14.3%増)が最大の伸び率を示し、とりわけ石油・ガス分野や石炭分野が牽引役となった。主たる産油地帯の内陸東部平原での生産が全体の7割を占めており、同地域での治安が一層改善され、生産が順調に進んだ。

運輸・通信部門(6.9%増)では、航空輸送分野やその他輸送分野の伸びが著しく、通信分野も順調に拡大した。商業・外食・ホテル部門(5.9%増)では、治安改善により社会生活が安定し、個人消費が活発化したことを受けて

小売り販売などの商業分野が伸びた。また、観光客の増加でホテル・外食分野が順調に伸びた。金融・保険・不動産部門(5.8%増)では、特に間接金融仲介サービス、保険サービスが牽引役になった。建設部門(5.7%増)では、上下水道・港湾・ダムなどの工事が進捗したことにより、インフラ建設、ビル建築・保守の両分野とも順調に伸びた。製造部門(3.9%増)では、輸送機器分野が伸びた。個人所得の向上、自国通貨高、自動車ローン普及などを背景に国民の購買力が増加したためだ。その他、製糖分野、衣料品を除く繊維分野、靴などの皮革分野、非金属鉱物加工分野なども伸びた。農業部門(2.2%増)では、ラニーニャ現象が顕著だった3~5月の大洪水などの影響を受けて、コーヒー分野の生産が大幅に落ち込んだが、家畜分野、その他農業分野は順調だった。

■ 輸出入ともに過去最高を記録

2011年の貿易収支を国際収支ベースでみると、2000年以来最高の55億1,400万ドルの黒字となった(以下記述は通関ベース)。

輸出は前年比46.7%増の569億5,400万ドルと拡大した。輸出を品目別にみると、牽引役となったエネルギー産品のうちでも、石油・石炭が363億5,100万ドル(61.6%増)と大幅に伸びた。このほか主要輸出品で増加が目立ったものとして、基礎金属品、化学品、食・飲料、自動車がある。自動車が伸びたのは、主としてアンデス共同体の関税優遇策を活用したエクアドル向けが順調だったのが理由。一方、コーヒーは天候不順で輸出量は

表1 コロンビア GDP 統計

	2010年	2011年	(単位:%)			
			2011年			
			Q1	Q2	Q3	Q4
実質GDP成長率	4.0	5.9	5.0	5.1	7.5	6.1
民間最終消費支出	5.0	6.5	5.5	7.8	6.7	6.1
政府最終消費支出	5.5	2.6	2.4	2.6	2.6	3.0
国内総固定資本形成	4.6	16.6	12.7	13.8	23.7	16.5
財貨・サービスの輸出	1.3	11.4	10.1	7.6	12.3	15.8
財貨・サービスの輸入	10.5	21.5	21.1	24.7	20.3	20.1

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕表2とも国家統計局(DANE)から作成。

表2 コロンビアの品目別輸出入<通関ベース>

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2010年		2011年		2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
農林水産品	2,147	2,264	4.0	5.4	2,000	2,543	4.7	27.2
鉱産品	19,147	31,260	54.9	63.3	124	166	0.3	33.9
工業品	16,730	21,075	37.0	26.0	27,136	37,080	67.8	36.6
基礎金属品	3,853	4,404	7.7	14.3	2,642	3,551	6.5	34.4
食・飲料	3,582	4,768	8.4	33.1	2,212	2,849	5.2	28.8
石油精製品	3,405	5,150	9.0	51.2	2,068	3,846	7.0	86.0
化学品	2,613	3,053	5.4	16.8	7,387	9,130	16.7	23.6
ゴム・プラスチック製品	638	751	1.3	17.7	1,406	1,842	3.4	31.0
衣料品	545	540	0.9	△ 0.9	264	451	0.8	70.8
紙製品	497	550	1.0	10.7	796	860	1.6	8.0
繊維品	476	564	1.0	18.5	1,032	1,478	2.7	43.2
非金属鉱物品	415	470	0.8	13.3	485	630	1.2	29.9
一般機械	358	409	0.7	14.2	5,022	6,372	11.7	26.9
車両(自動車)	346	416	0.7	20.2	3,822	6,071	11.1	58.8
その他の工業品および製品	1,796	2,355	4.1	31.1	11,423	14,886	27.2	30.3
総額	39,820	56,954	100.0	46.7	40,683	54,675	100.0	34.4

市場(メルコスール)向けは17億1,000万ドルと、ベネズエラ向けと並んだ。

輸入は好景気による旺盛な内需を賄うため、2010年の406億8,300万ドルから2011年には546億7,500万ドルにまで拡大した。工業品(原材料、中間財、完成品)が519億6,600万ドルで、全体の95.0%を占めた。

減ったが、金額ベースでは26億800万ドルと38.5%も増加した。新興国を含む世界的な需要増もあり、コロンビアが得意とする高品質のアラビカ種の国際価格がリーマン・ショック後に急騰したことが要因として挙げられる。また、切り花を含む花きは0.9%増の12億6,000万ドルだった。主要仕向け先は米国(9億6,238万ドル)、日本(5,095万ドル)、オランダ(2,490万ドル)など。花き産業は、直近3年間続々天候不順、通貨ペソ高、欧州債務危機などの影響を受け、生産面で大きな打撃を被っている。コロンビア花き輸出組合は、日本・韓国・中国・オーストラリアなど輸出市場の多角化に注力している。

輸出総額の国別では1位の米国が217億500万ドルに達し、EU27(88億6,800万ドル)、アンデス共同体(34億4,700万ドル)が続いた。このほかチリ向けの増加が目立ったほか、ベネズエラも回復した。さらに南米南部共同

主要輸入品目は、車両(自動車)、化学品、一般機械、石油精製品など。中でも自動車は、消費購買力向上、ペソ高、自動車ローンの利便性拡大、メキシコとの自由貿易協定(FTA)を通じた完成車輸入税ゼロなどを背景に、2011年の新車販売が32万4,570台(27.8%増)と初めて30万台水準を突破した。特に輸入車の販売シェアは直近6年間で最大の59.5%と6割近くに達し、欧州製など高級車が首都圏で目立ってきた。

輸入を国別でみると、1位の米国が135億9,400万ドル、次いで中国(81億7,600万ドル)、メキシコ(60億5,900万ドル)となっている。前年に引き続き中国、メキシコの台頭が目立った。

上位の国との主要取引で伸びた品目をみると、米国とは燃料・鉱物油(前年比59.8%増)、航空機(2.4倍)、自動車・同部品(46.1%増)、中国とはAV再生録画機器(41.3%増)、鋳鉄鋼製品(2.8倍)、ボイラー・一般機械(27.8%増)、自動車・同部品(84.5%増)、メキシコとは自動車・同部品(2.7倍)、燃料・鉱物油(6.0倍)、AV再生録画機器(15.4%増)などだった。

2012年第1四半期の貿易は、輸出入とも順調に拡大した。輸出は前年同期比21.5%増の153億4,790万ドル、輸入は13.6%増の138億4,828万ドルだった。

コロンビアの通商政策面では、最大の貿易相手国である米国とのFTAが2012年5月

表3 コロンビアの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2010年		2011年		2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
米国	16,748	21,705	38.1	29.6	10,477	13,594	24.9	29.8
EU27	4,976	8,868	15.6	78.2	5,440	7,472	13.7	37.4
ドイツ	250	419	0.7	67.6	1,658	2,215	4.1	33.6
スペイン	565	1,720	3.0	204.4	502	614	1.1	22.3
ベルギー	450	621	1.1	38.0	162	223	0.4	37.7
中南米	10,955	18,315	32.2	67.2	12,558	17,045	31.2	35.7
ベネズエラ	1,423	1,750	3.1	23.0	305	563	1.0	84.6
エクアドル	1,825	1,909	3.4	4.6	835	1,066	1.9	27.7
ペルー	1,132	1,397	2.5	23.4	786	1,025	1.9	30.4
ブラジル	1,040	1,370	2.4	31.7	2,370	2,740	5.0	15.6
アルゼンチン	130	305	0.5	134.6	1,509	1,872	3.4	24.1
メキシコ	638	705	1.2	10.5	3,857	6,059	11.1	63.8
アジア	4,659	5,394	9.5	15.8	9,964	14,027	25.7	40.8
日本	511	528	0.9	3.3	1,157	1,438	2.6	24.3
韓国	373	276	0.5	△ 26.0	940	1,234	2.3	31.3
中国	1,620	1,989	3.5	22.8	5,477	8,176	15.0	49.3
合計(その他含む)	39,820	56,954	100.0	43.0	40,683	54,675	100.0	34.4

〔出所〕 国税関税局(DIAN)、ワールド・トレード・アトラスから作成。

15日に発効し、さらなる貿易拡大が見込まれる。また、カナダ(2011年8月15日)、EFTA(うちスイス、リヒテンシュタインのみ2011年7月1日)とのFTAも発効させている。一方、韓国とは2012年6月に合意し、同月25日に署名した。コロンビアの往復貿易(2011年)に占めるFTA発効国の構成比は、55.3%となっている。

■ エネルギー・鉱業を中心に対内投資額は倍増

コロンビア中央銀行によると、2011年の対内直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は、前年のほぼ2倍の132億3,420万ドルと過去最高になった。エネルギー・鉱業分野(26億2,100万ドル)に次いで、商業・外食・ホテル分野(22億6,400万ドル)、運輸・倉庫・通信分野(14億2,100万ドル)への投資も拡大した。2011年の特徴として、好景気による個人消費需要拡大を反映し、商業・サービス分野、運輸・倉庫・通信分野など、エネルギー・鉱業分野以外でも投資が拡大したことが挙げられる。

地域別にみると、2010年はタックスヘイブン地域が1位だったが、2011年は欧州地域(19億3,820万ドル、前年の10.5倍)、次いで南米地域(9億8,340万ドル、6.4倍)、北米地域(7億6,120万ドル、2010年は流出)、中米地域(6億6,330万ドル、50.4%増)の順となった。オランダ(8億960万ドル)、スペイン(7億3,250万ドル)、英国(3億9,040万ドル)などが、欧州諸国の不景気を反映して、欧州から新興市場コロンビアに投資対象を転換してきた。さらに、好景気のコロンビア市場参入と自由貿易協定(FTA)発効国との取引拡大をにらんだ投資として、チリ(5億8,300万ドル)、米国(5億710万ドル)、カナダ(1億7,380万ドル)などが挙げられる。

コロンビア貿易投資振興機構(PROEXPORT)資料から2011年の投資事例をみると(投資額は非開示)、ビジネス・プロセス・アウトソーシングサービス(BPO)分野への投資が目立つ。カナダのSNCラバリン(投資分野:建設エンジニアリング・通信サービス、投資形態:株式取得)、ブラジルのステファニーニITソリューションズ(ITサービス、合併)、チリのソナスランド(ITサービス、グリーンフィールド)などがある。経済専門紙「ポルタフォリオ」(4月12日)によると、コロンビアのBPO市場では約2,600事業者が操業し、年間売上高約12億ドル、12万人の雇用者が従事している。同紙は、コロンビアを営業戦略拠点として、米州・カリブ、欧州地域向けのBPOサービスが提供可能とみている。BPO以外の事例としては、中国のラッキーライオン(電動バイク組立・販売、グリーンフィールド)、スイスのナイコメド(医薬品販売、株式取得)、東芝(電子機器販売、グリーンフィールド)、ノルウェーのアグリノス(肥料販売、グリー

表4 コロンビアの国・地域別対内・対外直接投資
〈国際収支ベース、ネット、フロー〉

	(単位:100万ドル、%)			
	対内直接投資		対外直接投資	
	2010年	2011年	2010年	2011年
	金額	金額	金額	金額
北米(NAFTA)	△59.8	761.2	429.8	2,642.5
米国	400.9	507.1	433.2	1,021.9
カナダ	162.8	173.8	1.5	0.2
メキシコ	△623.5	80.3	△4.9	1,620.4
欧州地域	184.6	1,938.2	573.5	837.3
スペイン	43.5	732.5	7.0	371.1
英国	194.0	390.4	630.7	179.7
オランダ	△158.3	809.6	△19.0	3.9
フランス	47.6	46.3	0.6	0.2
スイス	47.5	107.1	0.8	270.1
ドイツ	△27.4	25.3	△60.2	0.0
ルクセンブルク	△29.9	33.8	0.0	0.1
カリブ島しょ地域 (タックスヘイブン)	307.7	△7.5	3,669.0	1,010.0
アンギラ(英)	256.8	183.6	n.a.	n.a.
バミューダ諸島(英)	△30.8	9.3	2,146.6	21.2
バージン諸島(米)	6.2	△304.8	1,360.8	118.2
ケイマン諸島	33.9	△1.4	15.2	783.2
蘭領アンティル	△0.5	9.0	69.7	0.0
バハマ	7.2	16.3	30.0	1.4
中米地域	440.9	663.3	1,076.6	648.1
パナマ	426.1	649.6	414.0	289.9
グアテマラ	0.8	1.5	661.3	57.0
エルサルバドル	2.4	2.5	0.4	268.3
南米地域	154.0	983.4	804.0	3,147.7
ブラジル	53.6	206.4	189.3	29.0
ペルー	10.7	19.1	307.2	794.4
チリ	20.0	583.0	282.0	1,368.7
アジア・太平洋地域	△0.7	37.7	1.3	3.2
日本	△13.2	9.8	0.0	0.0
オーストラリア	3.6	9.8	0.0	0.0
韓国	1.3	2.7	0.0	0.0
中国	6.2	12.4	0.0	0.0
その他地域	5.8	42.7	7.3	0.0
イスラエル	3.4	2.4	0.0	0.0
再投資利益	3,085.7	3,731.7		
石油部門	2,780.9	5,083.3		
合計(その他含む)	6,899.2	13,234.2	6,561.7	8,289.0

〔出所〕表5ともコロンビア中央銀行。

ンフィールド)などエネルギーを含め多様な分野への参入があった。2012年1~3月の主要案件としては、チリのソフォカル(医薬品販売、合併)、ブラジルのCKE(レストラン、グリーンフィールド)、米Mmexマイニング(石炭・金開発、グリーンフィールド)など、投資分野の多様化が進んでいる。

■ 対外直接投資はFTA効果をにらんだ投資が拡大

対外直接投資動向をみると、2011年は82億8,900万ドルと過去最大となった。投資分野では、1位が金融(42億8,950万ドル)、次いで電力・ガス・水(13億3,720万ドル)、製造業(11億2,490万ドル)、商業・外食・ホテル(8億4,270万ドル)となった。

地域別にみると、2009~2010年にカリブ島しょ地域

表5 コロンビアの業種別対内・対外直接投資
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

	対内直接投資		対外直接投資	
	2010年	2011年	2010年	2011年
	金額	金額	金額	金額
石油	2,780.9	5,083.0	-	-
鉱業(石炭含む)	1,755.0	2,621.0	-	-
鉱業(石油・石炭等)	-	-	4,574.4	655.4
農林水産	67.0	131.0	14.0	△3.8
製造業	655.6	533.0	136.7	1,124.9
電力・ガス・水道	36.3	585.0	1,162.6	1,337.2
建設	298.1	454.0	27.2	53.5
商業・外食・ホテル	369.6	2,264.0	21.3	842.7
運輸・倉庫・通信	△425.3	1,421.0	416.3	△25.6
金融	1,251.5	343.0	139.1	4,289.5
その他	110.5	△201	70.1	15.2
合計(その他含む)	6,899.3	13,234.0	6,561.7	8,289.0

(タックスヘイブン)が1位だった状況から大きく変化した。2011年は1位が南米地域(31億4,770万ドル)、次いで北米地域(26億4,250万ドル)で、カリブ島しょ地域(10億1,000万ドル)は3位だ。国別ではチリ(13億6,870万ドル)、ペルー(7億9,440万ドル)、メキシコ(16億2,040万ドル)、米国(10億2,190万ドル)などで、FTAを通じて得られる効果への先行投資とみられる。

2011年の投資先の事例をみると、ペルーやパナマなど周辺国でのエネルギー関係プロジェクトのほか、米国での工場建設投資が見られた。2012年1~3月の主要事例としては、チリ向けではSQLソフトウェア(ソフトウェア、グリーンフィールド)、ペルー向けではエコペトロール(石油開発、グリーンフィールド)、メキシコ向けではクエロス・ベレス(皮革製品販売、グリーンフィールド)など、FTA発効国向け投資が活発だ。

■ 日本とのEPAは研究段階が終了

2011年の対日輸出は輸出全体の0.9%(5億2,800万ドル、3.3%増)、対日輸入は2.6%(14億3,800万ドル、24.3%増)だった。2011年の対日主要輸出品目は、コーヒーが全体の7割弱を占め、花き、フェロニッケル、石炭がそれぞれ1割未満。一方、輸入では、自動車・同部品が全体の4割弱を占めるほか、鉄鋼製品も伸びている。

2012年第1四半期の対日輸出は9,310万ドル(前年同期比49.5%減)、対日輸入は4億1,406万ドル(12.8%増)だった。

2011年の日本からの直接投資(再投資収益と石油部門を除く)は980万ドルで、1994年から2011年までの累計額は1億7,600万ドルとなり、全体の0.3%と前年比0.1ポイント上昇した。また米国経由の投資ではあるものの、2011年最大の案件は、伊藤忠商事が米ドラモンド社の保有するコロンビアで操業中の炭鉱および輸送インフラ資産の20%権益を獲得(約1,265億円)したものだ。消

表6 コロンビアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

	2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率
	(単位: 100万ドル, %)			
輸出総額(FOB)	511.1	528.0	100.0	3.3
コーヒー	372.5	351.0	66.5	△5.8
コーヒー調製品	15.0	15.2	2.9	1.3
花き	46.8	50.8	9.6	8.5
石炭	4.5	40.9	7.7	808.9
コークス	11.7	5.8	1.1	△50.4
フェロニッケル	36.4	35.7	6.8	△1.9
農業類	3.7	6.1	1.2	64.9
その他	20.5	22.5	4.3	9.8
輸入総額(CIF)	1,156.6	1,437.7	100.0	24.3
乗用自動車	207.2	239.3	16.6	15.5
貨物自動車	35.9	87.2	6.1	142.9
ショベルカー等	92.7	127.6	8.9	37.6
自動車部品	36.4	49.6	3.4	36.3
エンジン部品	24.4	33.6	2.3	37.7
タイヤ	89.8	118.6	8.2	32.1
鉄鋼製品	163.7	209.5	14.6	28.0
鋼管	13.5	23.3	1.6	72.6
印刷機械	12.2	39.0	2.7	219.7
医療機器	28.9	30.9	2.1	6.9
軸受	12.7	20.8	1.4	63.8
その他	439.2	458.3	31.9	4.3

[出所] 商工観光省。

費市場への期待も高まる中、2011年3月には電子機器販売で東芝デジタル・プロダクツ社が設立された。

2011年9月の日本・コロンビア両国首脳間で合意された、官民が合同で参加する経済連携協定(EPA)研究会合は、2011年11月に第1回会合がボゴタで開催された。2012年に入ってから、第2回会合(2012年2月、東京)、第3回会合(5月、ボゴタ)と開催された。同研究会はこの3回の会合で終了したが、EPA交渉の開始につながるか注目される。

【参考資料】

付表1 コロンビアのFTA 発効・署名・交渉状況

(単位:%)

FTA	発効日	コロンビアの貿易に占める構成比(2011年)			
		往復	輸出	輸入	
発効済	メキシコ	1995年1月1日	6.1	1.2	11.1
	アンデス共同体	2006年1月1日	5.1	6.0	4.1
	チリ	2009年5月8日	2.8	3.9	1.6
	中米3カ国(グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア)	グアテマラ:2009年11月13日 エルサルバドル:2010年2月1日 ホンジュラス:2010年3月27日	1.2	2.3	0.2
	CAN-メルコスール	2005年2月1日(パラグアイのみ 2005年4月19日)	5.8	3.0	8.7
	欧州自由貿易連合(EFTA)	2011年7月1日:スイス、リヒテンシュタインのみ	1.3	1.7	0.9
	カナダ	2011年8月15日	1.4	1.1	1.8
	米国	2012年5月11日	31.6	38.1	24.9
	合計	-	55.3	57.3	53.1
交渉中	EU	-	14.6	15.6	13.7
	韓国	-	1.4	0.5	2.3
	パナマ	-	1.9	3.4	0.2
	トルコ	-	0.6	1.0	0.2
研究段階	日本	-	1.8	0.9	2.6

〔出所〕 国税関税局(DIAN), 国家統計局(DANE)から作成。

付表2 コロンビアの対内直接投資案件(2011)

業種	企業名	国籍	時期	投資額(100万ドル)	概要
鉱業	パシフィック・ルピアレス	カナダ	2011年8月	100	コロンビアでの石油探掘技術試験投資。
鉱業	コペック	チリ	2011年10月	181	テルペルへの資本参加比率の増加。
鉱業	伊藤忠	日本	2011年6月	1,265(億円)	米ドラモンド社が保有するコロンビアで操業中の炭鉱および輸送インフラ資産の20%権益を獲得。
金融	スコティア・バンク	カナダ	2011年10月	1,000	コロンビア銀行株の51%を取得。
金融	ペガスス	アルゼンチン	2011年11月	500	オスピナス社と組み、不動産プロジェクトの開発。
金融	バンコ・デ・クレジト・デル・ペルー	ペルー	2011年12月	150	コレバル社株の51%を取得。
医薬品販売	ナイコメッド	スイス(日本)	2011年4月	-	地場ファルマコム社買収。9月30日、武田薬品工業がナイコメッド社を96億ユーロで買収完了。
ITサービス	ステファニーニ	ブラジル	2011年3月	-	地場IT企業インフォルマティカ・イ・テクノロジー社吸収・合併。
ITサービス	ソナスランド	チリ	2011年3月	-	アンティオキア県(メデジン)パートナーと共同でオーディオ分野ITソリューション提供事業の展開。
電子機器販売	東芝	日本	2011年3月	-	東芝デジタルプロダクツ・コロンビア社の設立。
二輪車アセンブリー	ラッキーライオン	中国	2011年12月	3	電動バイクアセンブリー(2012年9月エヘ・カフェテロ地帯自由貿易特区にて操業開始予定、コロンビア国内市場で30店舗開設ならびにエクアドル・パナマ・コスタリカ向け輸出拠点)
小売り	ソディマック	チリ	2011年8月	100	コロンビアでの新店舗拡大投資。
通信	テレフォニカ	スペイン	2011年8月	350	携帯、固定通信網の強化。
物流	TCB	スペイン	2011年5月	240	ブエナビスタウーラ港のコンテナターミナル運営投資。
観光	スターウッドホテル&リゾーツ	米国	2011年1月	90.1	カルタヘナにオーシャンタワーズ建設プロジェクト。
建設・エンジニアリング	SNCラバリン	カナダ	2011年1月	-	地場1,000名規模のエネルギー系エンジニアリング会社を買収。
肥料販売	アグリノス	ノルウェー	2011年8月	-	有機肥料販売・アフターサービス提供。

〔出所〕 各社発表および報道などから作成(「時期」は現地報道メディア発表日)。

付表3 コロンビアの対外直接投資案件(2011)

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額(100万ドル)	概要
エネルギー	EEB	ペルー	2011年1月	350	ペルーにおける発送電プロジェクト。ペルー・カリダ社株式の60%を取得。
エネルギー	EPM	パナマ	2011年1月	135	パナマの送電企業 ENSA 株取得。
エネルギー	ISA	ペルー	2011年3月	130	ペルー子会社による50万ワットの送電システム開始。
エネルギー	ISA	ペルー	2011年4月	841	ペルーにおける17の送電プロジェクトへの投資。
金融	スラ・グループ	オランダ	2011年7月	2,900	ING ラテンアメリカ社の買収。
セメント	アルゴス	米国	2011年10月	760	ラファージュ社の米国資産買収。
化学	カルバハル・エンパケ	チリ	2011年11月	17	チリのクダス社買収。
化学	カルバハル・エンパケ	ペルー	2011年9月	52	ペルー包装企業の買収。
観光	ホテルス・エステラル	ペルー	2011年8月	20	ペルーにおける2つのホテル建設投資。
食品	アルピナ	米国	2011年7月	14	米国で工場建設投資。
化学	グルボ・フェニックス	米国	2011年4月	25	米国で工場建設投資。

〔出所〕 各社発表および報道等から作成。